**秩父演習林において無人航空機を利用する者に関する確認書**

無人航空機飛行操縦者　氏名

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 確認事項 | | | 確認結果 |
| 知識 | | 航空法関係法令に関する知識を有すること。 | □ 適　/　□ 否 |
| 安全飛行に関する知識を有すること。   * 飛行ルール（飛行の禁止空域、飛行の方法） * 気象に関する知識 * 無人飛行機の安全機能（フェールセーフ機能 等） * 取り扱い説明書に記載された日常点検項目 * 自動操縦システムを装備している場合には、当該システムの構造及び取扱説明書に記載された日常点検項目 * 国土交通省航空局標準マニュアルの機体の点検・整備の方法 * 無人航空機を飛行させる際の安全を確保するために必要な体制 * 飛行形態に応じた追加基準 | □ 適　/　□ 否 |
| 能　力 | 一　般 | 飛行前に、次に掲げる確認が行えること。   * 周囲の安全確認（第三者の立入の有無、風速・風向等の気象 等） * 燃料又はバッテリーの残量確認 * 通信系統及び推進系統の作動確認 | □ 適　/　□ 否 |
| 遠隔操作の機体※ | GPS等の機能を利用せず、安定した離陸及び着陸ができること。 | □ 適　/　□ 否 |
| GPS等の機能を利用せず、安定した飛行ができること。  ・上昇  ・一定位置、高度を維持したホバリング（回転翼機）  ・ホバリング状態から機首の方向を90°回転（回転翼機）  ・前後移動  ・水平方向の飛行（左右移動又は左右旋回）  ・下降 | □ 適　/　□ 否 |
| 自動操縦の機体※ | 自動操縦システムにおいて、適切に飛行経路を設定できること。 | □ 適　/　□ 否 |
| 飛行中に不具合が発生した際に、無人航空機を安全に着陸させられ  るよう、適切に操作介入ができること。 | □ 適　/　□ 否 |
| 機 体 | | 機体安全管理   * IMU、電子コンパス、GNSS受信機、バッテリー等の航法デバイスの較正・機能チェック時期   ・搭載されたバッテリーのセルが適切に保護されていること。  （とくに外部設置の場合はケース等で保護されているか） | 年 　月 　日 |
| □ 適　/　□ 否 |

　　　年　　月　　日

利用代表者　　氏名　　　　　　　　　　印

* 遠隔操作を行う場合には「遠隔操作の機体」の欄に、自動操縦を行う場合には「自動操縦の機体」の欄にそれぞれ記載すること。遠隔操作及び自動操縦ともに行う場合には双方の欄に記載すること。